



高松市歴史資料館 年報
平成23年度 No.14

目次

I 展示

- 1 常設展..... 02
- 2 企画展..... 04
- 3 テーマ展..... 07
- 4 ロビー展..... 07

II 教育普及

- 1 サンクリスタル学習..... 08
- 2 学習室展示..... 09
- 3 講座..... 09
- 4 博物館実習..... 11
- 5 広報活動..... 11

III 資料整備

- 1 収集..... 12
- 2 貸出・特別利用..... 12
- 3 高松市収蔵品情報システム..... 13
- 4 ボランティア活動..... 13

I 展示

1 常設展

常設展示では、基本テーマを「瀬戸内海に育まれた高松の人々と暮らし」とし、高松の原始から現代にいたるまでの歴史と文化の変遷を通観できるようにしている。高松のすばらしさを知り、理解を深めてもらうのが目的である。

展示手法としては、各時代における特徴的な事象をテーマにすえ、実物資料・レプリカ・模型の展示だけでなく、映像資料・グラフィック等も駆使して、観覧者の知的要求に応じられるように特色ある展示構成を図っている。

また、別室のプレイミュージアム（学習室）では、パソコンなどを使って、高松の歴史や文化の情報を楽しみながら学べるよう工夫している。

なお、展示資料は、新収蔵資料による展示替えや資料の保存を考慮して随時入れ替えを行っている。

常設展示室

テーマ	サブテーマ
プロローグ	海を渡る
	高松平野の成立 ・高松最初の人類
原始・古代	稲作の発展と高松 ・稲作前史 ・稲作のムラ
	石清尾山古墳群 ・古代の国際交流 ・高松の古墳文化
	仏教文化と高松 ・高松平野の奈良時代 ・花開く仏教文化
中世	源平合戦と屋島 ・屋島合戦
	武士の活躍と高松 ・荘園と農民 ・讃岐国守護細川氏 ・戦国武将
近世	城下町高松の発展 ・高松城築城 ・香東川と栗林荘 ・高松城主松平家 ・高松の上水道 ・城下の賑わい
	讃岐三白と交通 ・讃岐三白 ・港町高松 ・街道と海運
	町人文化と高松 ・高松の教育 ・町人文化と暮らし

テーマ	サブテーマ
近・現代	近代都市高松の発展 ・文明開化の時代 ・高松市の誕生 ・連絡船の時代 ・市民の生活
	高松空襲 ・戦時体制 ・高松の戦災
ミニアター	高松訪ね歩記

映像資料

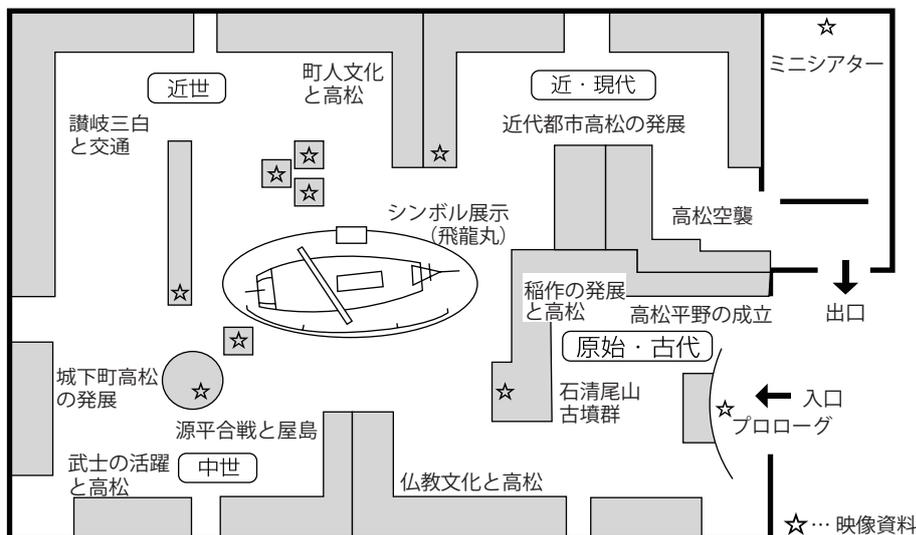
映像種類等	映像資料名
プロローグ	海を渡る
総覧映像	高松歴史ニュース
詳細映像	[原始・古代] 高松平野の姿 旧石器時代の生活 縄文時代の生活 稲作のムラ 石清尾山古墳群 積石塚古墳と盛土古墳 条里のムラを歩く
	[中世] 兵庫北関入船納帳にみる交易 戦国の世の高松 — 悲劇の城 喜岡城

映像種類等	映像資料名
詳細映像	[近世] 再現された飛龍丸 城下町の賑わい 木村黙老と「聞ままの記」 高松城下町の変遷 ・塩田風景 ・丸亀町筋と常盤橋 ・石清尾八幡神社 ・寺町筋 ・東浜舟入と内町五町 ・城下の井戸 ・高松藩の藩船 ・本丸と天守閣
	[近代・現代] 文明開化の先駆者「川崎舎竹郎」 大正デモクラシーと伏石事件 高松砂漠
ミニシアター 「高松訪ね歩記」	<ul style="list-style-type: none"> ・塩江美術館に行く ・女木島に行く ・庵治石を訪ねて ・中央球場を訪ねて ・盆栽を訪ねて ・ガソリンカーを訪ねて ・庵治・純愛の聖地を訪ねて ・石清尾山古墳群を訪ねて ・ため池と伝説を訪ねて～三郎池・平地編～ ・柴野栗山を訪ねて ・御厩焼を訪ねて ・遍路道を訪ねて ・屋島を訪ねて ・香川漆器を訪ねて ・男木島を訪ねて ・町並みを訪ねて～仏生山・香西編～ ・高松港周辺を訪ねて ・香東川を訪ねて ・披雲閣を訪ねて ・菊池寛を訪ねて ・五色台を訪ねて ・西浜を訪ねて ・保多織を訪ねて ・丸亀町を訪ねて
ファンタビュー	源平屋島合戦

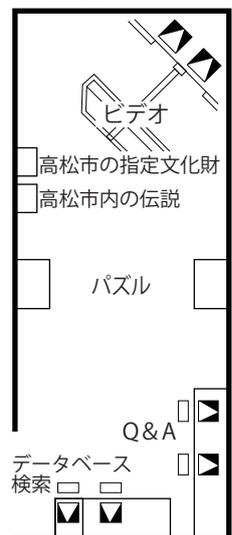
プレイミュージアム(学習室)

コーナー	映像資料名
ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> ・水の武術「水任流泳法」 ・高松市の伝統工芸 ～玉椿象谷と美しき漆芸の世界～ ・高松市の文化財 I ・へんろ道を歩く ・平家伝説を訪ねて ～悲劇の落人たち～ ・忘れかけた手作り遊び ～親子のふれあい～ ・高松の祭礼 ・失われゆくふるさとの手仕事 ～日傘と紙すき～ ・高松市の文化財 II ～仏像彫刻の世界～ ・古代との対話 ～高松平野の遺跡発掘～ ・失われつつある手仕事「炭焼き」 ・讃岐が誇る文人画家「長町竹石」 ・古代の瓦～瓦が解き明かす歴史～ ・古代の城～屋島に刻まれた歴史～
Q&A	たかまつのれきしクイズ
データベース検索	高松市ウェブミュージアム
高松市の指定文化財 高松市内の伝説	
パズル	

常設展示室



プレイミュージアム(学習室)



2 企画展

当館の核となる事業のひとつとして、年度ごとに企画展を3回開催している。平成23年度は「魅せる」、「知の体系」、「馬場景泉展」など日本の美や江戸時代の学問をテーマとした内容で展示紹介した。毎回の開催に当たり、下記から後援をいただいた。

朝日新聞高松総局・RSK山陽放送・RNC西日本放送・NHK高松放送局・OHK岡山放送・KSB瀬戸内海放送・産経新聞社高松支局・山陽新聞社・四国新聞社・TSCテレビせとうち・毎日新聞高松支局・読売新聞高松総局
第58回企画展は、香川大学図書館との共催である。

第57回企画展
魅せる

— 錦絵にみる女性の内なる美 —

会 期 平成23年7月31日～9月4日(31日間)
観覧者数 1,262人(うち有料観覧者数288人)

江戸時代、武家・商家の女性や遊郭などで働く女性たちは、外面の美しさを磨くと同等に教養やたしなみ、礼儀作法を学ぶことで美しい内面を磨くことも大切にしていた。書を読み、芸を習い、季節の移り変わりを愛でることもその方法のひとつであった。明治時代以降も、内面の美を磨くことは女性の心得として受け継がれていくこととなった。

本展では、当館が収蔵している江戸・明治時代の錦絵を中心に展示し、普段とは違う視点で、錦絵に描かれた女性たちの内面の美しさに焦点をあてて紹介した。



▲ ポスター



▲ 解説シート

印刷物

- ・ポスター(B2)
- ・チラシ(A4)
- ・解説シート(A4)

主な展示資料

- ・安達吟光『小学女礼式図解二十九・三十』 明治時代 当館蔵
- ・巖谷小波(案)・蕉園(画)『少女年中行事雙六』 明治時代 当館蔵
- ・楊洲周延ほか『源平盛衰記他錦絵貼交帖』 明治時代 当館蔵
- ・橋本周延『千代田の大奥』 明治27年～29年(1894～1896) 当館蔵
- ・橋本周延『玄燈写心鏡 川開』 明治23年(1890) 当館蔵
- ・月岡芳年『東京料理顔別品 久保町 松栄亭』 明治4年(1871) 当館蔵

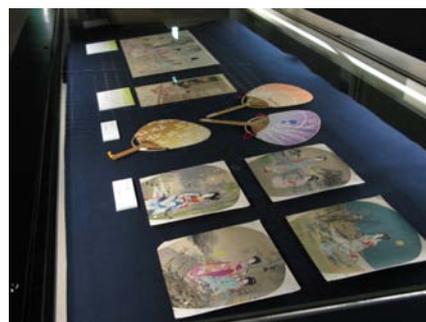
関連イベント

■ ワークショップ

- ・「お茶の作法入門」(サンクリスタル高松3階・和室)
8月7日(日)午後1時30分～/講師:金澤宗和(石洲流讃岐清水派石洲会)
/参加者19人
- ・「浴衣美人になろう!」(サンクリスタル高松3階・和室・第1集会室)
8月13日(土)午後1時30分～/講師:岡田愛子・高橋章/参加者25人

■ ミュージアムトーク(企画展示室)

会期中の日曜日午前11時～/展覧会担当者および歴史資料館サポーター
/計6回/参加者延べ24人



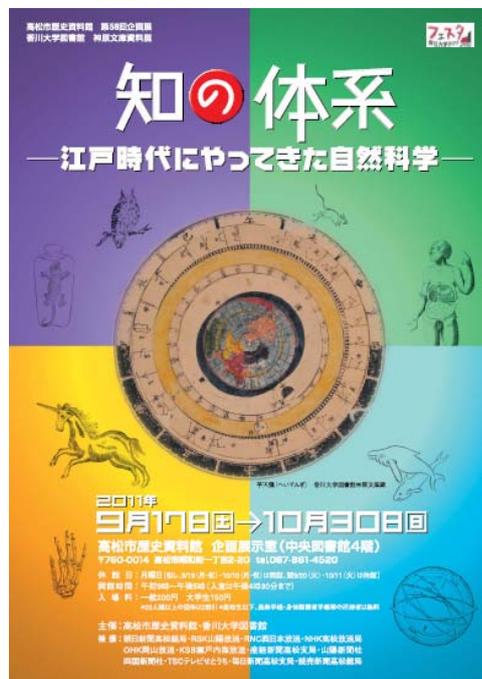
▲ 展示風景

第58回企画展
知の体系
 —江戸時代にやってきた自然科学—

会 期 平成23年9月17日～10月30日(38日間)
 観覧者数 1,734人(うち有料観覧者数192人)

江戸時代に入ると、社会の安定により経済・産業など様々な分野が発展していき、学問もその例外ではなかった。鎖国により西洋からの情報は制限されたが、人々の知識欲や学問への興味はおさえられず、結果として日本固有の数学である和算が発達し、庶民にも親しまれていた。その後、享保5年(1720)の禁書令緩和により、洋書の輸入が開始され『解体新書』を皮切りに西洋書が次々と翻訳された。西洋の学問は医学・科学・物理学などの自然科学が中心で、当時の知識人たちはこれらをどんどん吸収し、日本近代化の下地作りに貢献した。

本展では、香川大学図書館との共催により、^{かんぼら}神原文庫資料のうち江戸時代に西洋から入ってきた自然科学を中心とした書籍と、当館所蔵資料とをあわせて展示し、先進の学問を貪欲に学んだ江戸の知識人たちの足跡をたどった。



▲ポスター



▲図録

印刷物

- ・ポスター(B2)
- ・チラシ(A4)
- ・図録(A4縦・36頁)

主な展示資料

- ・杉田玄白『解体新書』(小石元俊先生校正書入) 香川大学図書館蔵
- ・寺島良安『和漢三才図会』 香川大学図書館蔵
- ・吉田光由『^{よしみつよし}塵劫記 ^{じんこうき} 卷上』 香川大学図書館蔵
- ・平賀源内『^{ふつるいひんしつ}物類品隲』 当館蔵
- ・藤川三溪『水産図解』 当館蔵
- ・久米通賢『平線儀』 当館蔵

関連イベント

- 講演会(サンクリスタル高松3階 視聴覚ホール)
 - ・「久米通賢の科学技術とその背景」
 9月25日(日)午後1時30分～/講師:松村雅文(香川大学教育学部教授)
 /参加者34人
 - ・「^{かんぼらあやは}神原彩翹と^{みょうじょうは}与謝野晶子 —讃岐明星派歌人の系譜—」
 10月8日(土)午後1時30分～/講師:田山泰三(英明高等学校教諭)
 /参加者27人
- ワークショップ(サンクリスタル高松3階・第1集会室)
 - ・「江戸時代の算数にチャレンジ!」
 10月23日(日)午後1時30分～/講師:三好一生(香川大学教育学部附属高松中学校教諭)/参加者15人
- ミュージアムトーク(企画展示室)
 - 会期中の日曜日・祝日午前11時～/展覧会担当者および歴史資料館サポーター/計11回/参加者延べ79人



▲展示風景



▲神原彩翹と与謝野晶子 —讃岐明星派歌人の系譜—

第59回企画展
 芸術文化振興基金助成事業
馬場景泉展
 ー現代花鳥画の精華ー

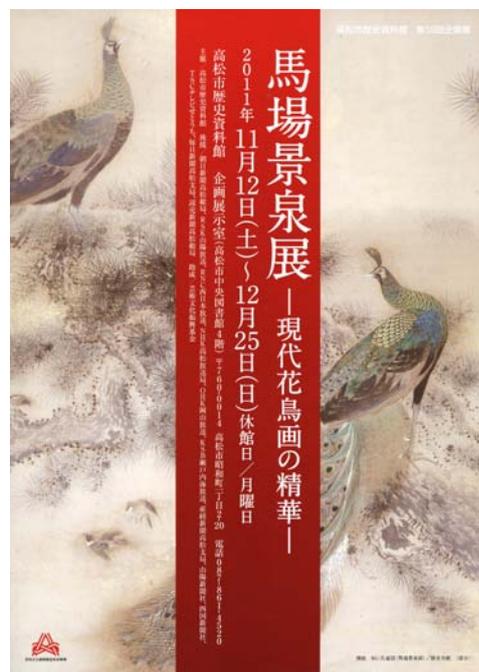
会 期 平成23年11月12日～12月25日(38日間)
 観覧者数 1,971人(うち有料観覧者数338人)

馬場景泉(1894～1954)は現在の高松市西植田町に生まれ、13歳で京都へ出て当時京都画壇の第一人者であった今尾景年のもとで修行を積んだ。十数年かけて正当な画風を継ぎ、動物の一瞬の動きを精密かつ躍動的に捉えた写実的な花鳥画を数多く描き、中でも孔雀を得意とした。

昭和6年(1931)に高松へ戻り、画業に勤しむも官展への出品は好まず、ついに京都画壇への復帰を果たすことはなかった。

昭和9年(1934)に始まった香川県美術展には、昭和10年(1935)から昭和28年(1953)の間に15回の入選を果たし、晩年には2度に渡って審査員も務めるなど、昭和初期から戦後にかけて県美術界の発展に大きく貢献した。

本展では、京都円山派の後継者の一人として、高松にて生涯にわたって花鳥画の美を追求した郷土画家、馬場景泉の作品を中心に紹介した。



▲ポスター



▲図録

印刷物

- ・ポスター(B2)
- ・チラシ(A4)
- ・図録(A4縦・32頁)

販売グッズ

- ・一筆箋
- ・メモ帳

主な展示資料

- ・馬場景泉『襖絵 松に孔雀図』 勝名寺蔵
- ・馬場景泉『老松孔雀図』 個人蔵
- ・馬場景泉『花鳥図』 個人蔵
- ・馬場景泉『朧月遊狸図』 個人蔵
- ・馬場景泉『西瓜に蝨斯図』 当館蔵
- ・今尾景年原画『景年花鳥画譜』 当館蔵

関連イベント

- 講演会(サンクリスタル高松3階・第1集会室)
 - ・「ナチュラリストが読む花鳥の美」
 - 12月11日(日)午後1時30分～／講師:曾根康男(自然観察指導員)
 - ／参加者25人
- ワークショップ(企画展示室またはロビー)
 - ・「景泉の彩色にチャレンジ!」
 - 会期中いつでも／参加者延べ100人
- ミュージアムトーク(企画展示室)
 - 会期中の日曜日・祝日午前11時～／展覧会担当者および歴史資料館
 - サポーター／計9回／参加者延べ61人



▲一筆箋



▲メモ帳



▲展示風景



▲ミュージアムトーク

3 テーマ展(収蔵品展など)

収蔵品展

高松ご城下井戸物語

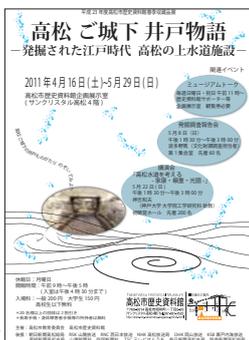
一発掘された江戸時代 高松の上水道施設一

■ 会 期

平成23年4月16日～5月29日(38日間)

■ 観覧者数

1,040人(うち有料観覧者数200人)



▶ ポスター

江戸時代初期、高松藩は城下町の各所に湧き水を貯め町屋等へ送る施設を作り、上水道を整備して人々に安心を届け、それは城下町の繁栄にも繋がった。

本展では、平成22年の亀井戸跡(新井戸)という貯水施設の発掘調査成果を紹介するとともに、江戸時代以降の上水道に関する資料も展示し、高松の水道の歴史を展観した。

関連イベント

■ 発掘調査報告会(サンクリスタル高松3階視聴覚ホール/無料)

「高松ご城下井戸物語 一発掘された江戸時代 高松の上水道施設一」
5月8日(日)午後1時30分～/講師:波多野篤(高松市文化財課文化財専門員)
/参加者28人

■ 講演会(サンクリスタル高松3階視聴覚ホール/無料)

「高松水道を考える一家康・頼重・光圀」
5月22日(日)午後1時30分～/講師:神吉和夫(神戸大学大学院 工学研究科 助教)
/参加者40人

■ ミュージアムトーク(企画展示室)

会期中の日曜日・祝日午前11時～/歴史資料館サポーター/計11回
/参加者延べ55人

収蔵品展

もんよう玉手箱 ～れきし・かたち・いろいろ～

■ 会 期

平成24年2月11日～3月25日(38日間)

■ 観覧者数

1,024人(うち有料観覧者数229人)



▶ ポスター

土器に施された縄文や銅鐸に描かれた人物画をはじめとして、古代より描かれてきた数々のもんよう。

「文様」「紋様」「模様」など、使われる字は違っても、広い意味で服飾品や建築物などを装飾する形・図柄のことを表す。それらは、装飾的な役割だけでなくそれぞれの図柄が意味を持ち、移り変わる時代とともに変化・発展をしてきた。

本展では、資料に見られるもんようから、その歴史や形の意味をひもといた。

関連イベント

■ ワークショップ

「自分のもんようをコースターにしよう」(サンクリスタル高松3階第2集会室)
3月3日(土)午後1時30分～/講師:大川原誠人(有)大川原染色本舗
/参加者14人

「紋切型でつくるインテリアモビール」(サンクリスタル高松3階第1集会室)
3月17日(土)午後1時30分～/担当:資料館職員および歴史資料館サポーター等
/参加者15人

4 ロビー展

01 4館で1館 ～高松市資料館紹介～

4/12～6/9

高松市合併満5周年記念として、石の民俗資料館、香南歴史民俗郷土館、讃岐国分寺跡資料館の資料とともに各館を紹介。



02 よみがえる戦災前の高松市街地図

7/26～8/6

「戦災前の高松市街地図を復元する会」が作成した戦前市街地復元地図を展示。



03 戦争中の高松を調べ展示をしよう

8/7～9/11

夏休み子ども歴史講座の参加者による作品を展示紹介。



04 屋島・栗林公園 絵はがき展

9/13～11/7

高松市の観光名所である屋島・栗林公園の変遷を、絵はがき資料をもとに紹介。



05 盆上に映す風景・錦絵の中の盆栽

11/8～12/4

ASPACアジア太平洋盆栽水石大会記念として、錦絵に描かれた盆栽に焦点をあてて紹介。



06 えぞこ・いづめこ 愛らしき冬

12/6～12/25

東北地方の郷土玩具である「えぞこ・いづめこ」を集めて紹介。



07 昔のお正月遊び

12/27～2/5

郷土玩具の中から、お正月遊びにちなんだ凧や独楽などを紹介。



08 天神さまとお雛さま

2/7～4/8

梅で象徴される天神さま(菅原道真公)と桃の節句お雛さまにちなんだ郷土玩具を紹介。



II 教育普及

「開かれた資料館」をめざし、当館では教育普及に積極的に取り組み、資料を通して市民との対話につとめている。そのひとつに、郷土の歴史をより楽しみながらよく知るために、学校教育との連携を図り、市内の小学生を対象に行うサンクリスタル学習を実施している。また、生涯学習の場として、「夏休みこども歴史講座」をはじめ様々な講座などを開催するとともに、博物館実習による学生の受け入れをし、学芸員の養成に寄与している。

1 サンクリスタル学習

サンクリスタル高松は、図書館(1・2F)と菊池寛記念館(3F)、歴史資料館(4F)で構成されている複合館である。この複合館という利点を生かし、より充実した学習内容と効果をめざすため、市内の小学生を対象とした「サンクリスタル学習」を平成5年度から当館が事務局となり実施している。

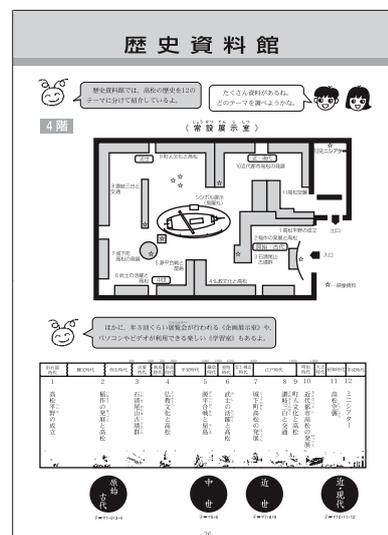
展示資料を活用し、分かりやすく歴史を伝え、親しんでもらうために、また、小学生にも興味を持って資料に接することができるように、学習の際の補助的な教材として「サンクリスタル学習のしおり」を作成している。また、展示解説の際には、校区にある遺跡や古墳などの話を織り交ぜ、興味深い歴史学習ができるように努めている。

サンクリスタル学習を実施するにあたり、各小学校の担当教諭を集めて説明会を開くとともに、実際の学習実施前には、参加学年担当教諭を交え、綿密な事前打合せを行っている。なお、必要に応じて各小学校との交通手段には大型バス等の用意もしている。

サンクリスタル学習参加校

5月	附属高松小学校	84名
	古高松小学校	119名
6月	中央小学校	154名
	牟礼南小学校	38名
	牟礼小学校	53名
	円座小学校	134名
7月	大野小学校	95名
	仏生山小学校	83名
	太田南小学校	192名
	古高松南小学校	80名
	鬼無小学校	43名
	木太小学校	104名
9月	川添小学校	101名
	屋島東小学校	31名
	下笠居小学校	54名
	植田小学校	21名
	木太南小学校	124名
10月	浅野小学校	103名
	亀阜小学校	42名
	川岡小学校	29名
	前田小学校	49名
11月	川島小学校	127名
	弦打小学校	83名
	新番丁小学校	35名
	林小学校	100名
	附属高松小学校	38名
	新番丁小学校	26名
	香西小学校	110名
	附属高松小学校	39名
12月	木太北部小学校	117名
	花園小学校	51名
	十河小学校	115名
	塩江・上西小学校	17名
	壇紙小学校	82名
2月	高松第一小学校	118名
	太田小学校	169名
2月	鶴尾小学校	32名
	屋島小学校	124名

38校 3,116名



2 学習室展示

■ 主催事業

「民具と昔の暮らし」

歴史資料館が収蔵している大正時代から昭和時代初期までの民具を展示し、実際に触れることのできるコーナーを設けた。民具に親しむことで、今の子ども達に当時の生活を知る手がかりにしておうとするものである。また、実際に民具を使っていた世代の方にも、懐かしく展示を見ていただくことを目的とした。

期間：平成23年7月31日～平成24年3月31日

企画担当：中條亜希子

参加者：延べ14,487人

附属高松小学校3年緑組 × 歴史資料館コラボイベント
「資料館をもりあげよう！」

附属高松小学校3年緑組の児童たちの企画により、歴史資料館に展示されている民具の使用方法などを、演劇やミュージアムトークで解説し、来館者の皆様に楽しんでいただいた。

期間：平成23年12月23日

参加者：360人



▲ポスター



▲資料館をもりあげよう！

3 講座

■ 主催事業

夏休みこども歴史講座

郷土高松の歴史をもっと知りたい・学びたいと思う小学生(対象：3～6年生)のために、毎年テーマを絞り、実地見学や調べのまとめ、発表までをサポートする講座を開催した。

戦争中の高松を調べ、展示をしよう

自由研究として「戦争中の衣食住」「戦時中の学校」「空襲・復興」の3つのテーマからひとつを選び、そのテーマについて戦争体験者からの聞き取りや、歴史資料館常設展示室の見学、図書館利用といった方法で調べ、レポートを博物館実習生とともに完成させてロビーに展示した。

期間：8月7日～9月11日

企画担当：中山尚子

参加者：延べ22人



▲展示風景

歴史クイズにチャレンジしよう！

春休み・夏休み・冬休みの間、中学生以下を対象に、常設展示にちなんだ歴史クイズで歴史や資料館に親しんでもらった。

企画担当：中山尚子・村山奈美

参加者：延べ457人

古文書講座

実際の古文書を題材に取り上げ、参加者と一緒に読むなど、古文書に親しむ講座を開催した。

講師：三谷敏雄(元高等学校教諭)

古文書に暮らしをさぐる

8月18日・9月15日・10月20日・11月17日・12月8日

2月16日・3月15日

参加者：7回延べ354人



▲講座風景

夏休み工作教室

リボンの金魚を作ろう！

色とりどりのリボンを編んで金魚を作り、それを使って見た目も涼しいモビールを作成した。

期間：8月20日(土)午後1時30分～

講師：天野恭次

参加者：30人



▲リボンで編んだ金魚たち

Ⅱ 教育普及

■ サポート事業

サポーター養成講座および活動

サポーターによる展示解説のための事前研修を実施し、必要な能力をつちかった。

講座名	期日
4月例会・展示事前説明	4月16日
5月例会	5月1日
6月例会	6月5日
書庫整理	6月7日
書庫整理	6月8日
書庫整理	6月22日
7月例会・展示事前説明	7月3日
8月例会・展示事前説明	7月30日
9月例会・展示事前説明	9月4日
10月例会	10月2日
11月例会・展示事前説明	10月30日
12月例会	12月4日
1月例会	1月8日
2月例会・事務連絡・更新希望確認	2月12日
3月例会	3月17日

活動名	期日	内容
■ 第57回企画展「魅せる 一錦絵にみる女性の内なる美」 ミュージアムトーク	7月31日・8月7・14・21・28日・ 9月4日(午前11時～)	展示会場にて展示解説
■ 第58回企画展「知の体系 一江戸時代にやってきた自然科学」 ミュージアムトーク	9月18・19・23・25日・ 10月2・10・16・23・30日(午前11時～)	展示会場にて展示解説
■ 第59回企画展 芸術文化振興基金助成事業「馬場景泉展 一現代花鳥画の精華」 ミュージアムトーク	11月13・20・23・27日・ 12月4・11・18・23・25(午前11時～)	展示会場にて展示解説
■ 収蔵品展「高松ご城下井戸物語 一発掘された江戸時代 高松の上水道施設」 ミュージアムトーク	4月17・24・29日・ 5月1・3・4・5・8・15・22・29日(午前11時～)	展示会場にて展示解説

■ 共催事業

講座名	期日	講師	参加者人数
■ 讃岐村塾			
石清尾山古墳と3・4世紀の四国	5月28日	大久保徹也(徳島文理大学文学部文化財課文化財学科教授)	40
ガイドと共に愉しむ栗林公園	6月25日	亀井匡(栗林公園ボランティアガイド副会長)	20
よみがえる戦災前の高松市街地図	7月23日	谷本亘(「戦災前の住宅地図を復元する会」会長)	20
生駒家の女性たち	8月27日	藤井雄三(教育委員会教育部次長)	35
屋島城が築かれた頃の讃岐 (古代山城日韓シンポジウム第1回)	9月18日	佐藤竜馬(香川県埋蔵文化財センター専門員)	25
大宰府と羅城 (古代山城日韓シンポジウム第2回)	10月9日	赤司義彦(九州国立博物館展示課長)	12
文化財の修復について	11月26日	岡泰央((株)岡墨光堂 代表取締役)	35
讃岐漆芸にみる伝統工芸	12月24日	川西弘一(高松市美術館業務第一係長)	19
三土忠造と南原繁	1月28日	田山泰三(英明高校教諭)	30
讃岐のり染めの技と魅力	3月24日	大河原静雄((有)大河原染色本舗)	18

4 博物館実習

博物館学芸員資格取得に必要な博物館実習課程履修のため、各大学から要請のあった学生を受け入れ、博物館実習を行った。

8月4日～8月7日・8月9日～8月10日（6日間） 計6人

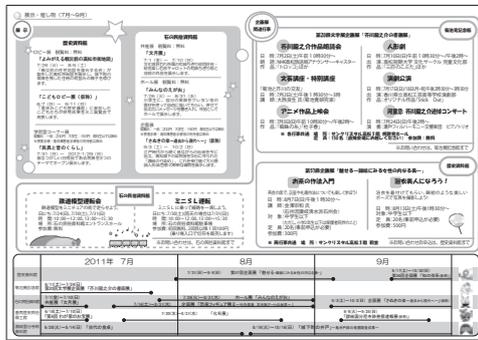
5 広報活動

館の情報を広く周知し利用促進を図るため、リーフレット・ポスター・チラシ等を高松市内外の関係施設や観光案内所・ホテル等へ配布したほか、インターネットで各種展示・講座の案内、資料紹介、高松の歴史や文化に関する様々な情報提供を積極的に行った。

また、当館・石の民俗資料館・香南歴史民俗郷土館・讃岐国分寺跡資料館の4館の展示やイベント予定を掲載した『ほっと museum 通信』を年4回、4館の取り組みや市民との活動を伝える『高松市資料館だより maimaiko (まいまいこ)』を年1回発行した。

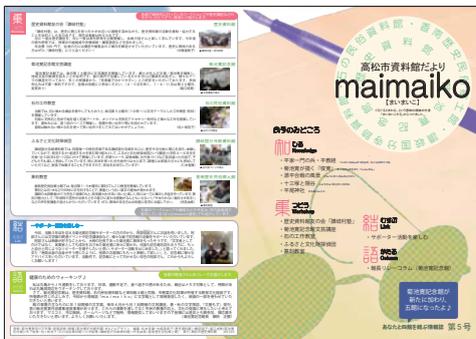
なお、ほっと museum 通信 23年度夏号からは、新たに菊池寛記念館も加わり5館となった。

■ ほっと museum 通信



2011年夏号

■ maimaiko (まいまいこ)



第5号 (2012年3月発行)

III 資料整備

資料整備は、資料館の最も基本的な機能で、かつ重要な役割を占めるものである。

資料の収集・整理・保存を行うことにより、資料館にとって最大の財産である収蔵資料に厚みを増し、これによって常設展示の展示替え、また調査研究を通して企画展示等の方法で市民に還元されるとともに、さらに貴重な文化財産を次世代に伝えていく使命を持つ。収集方法としては、購入・寄贈・移管・寄託などがある。

1 収集

■ 購入

11件

分類番号	資料名	作者・著者名	時代・制作年	員数	全体法量 (cm)	品質
美術工芸 絵画						
O.0431	梅花・菊花図屏風	谷文晁 (画) 菊池五山 (賛)	江戸時代	6 曲 1 双	縦 174.0 横 64.5	紙本墨画
O.0432	李龍眠山莊図	戸塚茗溪	江戸時代 (19 世紀)	1 幅	縦 190.5 横 72.0	紙本着色
O.0433	山水図	長町竹石 (画) 柴野栗山 (賛)	江戸時代 (18 世紀後半～19 世紀初)	1 幅	縦 204.0 横 56.0	紙本淡彩
O.0434	湖天暮景 七絶三行書	向井舟阜 (画) 山田梅村 (書)	明治 13 年 (1880)	2 幅対	縦 140.0 横 56.2	絹本墨画 絹本墨書
O.0435	石榴図	小田知周	大正 6 年 (1917)	1 幅	縦 196.5 横 51.5	紙本墨画
O.0436	白衣観音図	狩野常真	江戸時代 (17 世紀)	1 幅	縦 182.0 横 53.5	絹本墨画
O.0437	梅木図	松平頼恭	江戸時代 (18 世紀)	1 幅	縦 193.0 横 57.0	絹本墨画
美術工芸 書跡						
T.0526	臘月二十九日雑文	長町竹石	江戸時代 (18 世紀後半～19 世紀初)	1 幅	縦 108.0 横 89.0	紙本墨書
T.0527	対幅	後藤芝山	江戸時代 (18 世紀)	2 幅対	縦 194.4 横 32.5	紙本墨書
歴史 書籍・刊行物						
C.2140	讃岐風景論及び讃岐人性論	長尾折三	明治 35 年 (1902)	1 冊	縦 18.5 横 12.8 厚さ 1.3	
歴史 古文書・古記録・その他						
W.6899	松平頼重書状	松平頼重	江戸時代 (17 世紀)	1 紙	縦 41.3 横 56.6	

■ 寄贈・移管 ※掲載の順序は、採納手続き順による

11件

亀井霊泉碑の拓本 (軸装)	1 点	香南拓本会 会長 側瀬照明氏
旧高松城天守破風飾三ツ葵紋木彫ほか付属品 (共箱、包布、風呂敷、新聞切抜)	1 式	東濱恵美須神社 三好克彦氏
横枡 一斗枡 篩 2 点 縄繻い器 菰編み器	6 点	香西牧夫氏
「由緒粗書」大森主税ほか	9 点	西川澄雄氏
考古遺物 (まだこつぽ 1 点、いまだこつぽ 5 点、鹿の角 3 点、ナウマンゾウの骨ほか 8 点)	17 点	新開博氏
書道関係書籍	549 冊	永原美智子氏
「主婦の友」昭和 19 年新年号附録日本画短冊ほか	30 点	山田美智子氏
彩画職人部類 上・下	各 1 冊	山田美智子氏
故岩佐丈太郎氏収集資料 (瓦、図録、拓本道具一式)	257 点	岩佐敏夫氏
絵葉書帖 (回顧) 軍艦保津支那事変従軍記念	2 点	炭井真智子氏
馬場景泉筆 孔雀図	1 点	矢野茂雄氏

2 貸出・特別利用

■ 貸出

3件

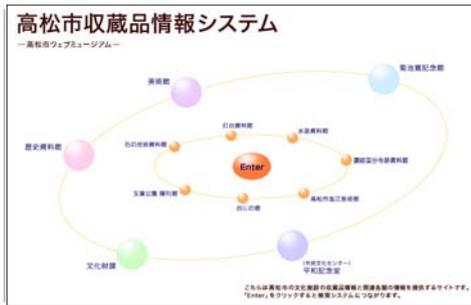
分類番号	資料名	出品展覧会	会場	会期
JD.0006	鷺羽丸船名板	平成 23 年度特別展 昭和犬鉄道展	香川県立ミュージアム	平成 23 年 10 月 22 日～11 月 27 日
B.0096	[リーフレット] 銃後の旅は讃岐路へ	- ふるさとの汽車と電車 そして連絡船 -		
B.0157	[ポスター] 國有鉄道 (蒸気機関車と山村・広重街道図・日本地図)			
B.0104	[パンフレット] 健康増進・體位向上 徒歩適地案内			
B.0158	[ポスター] 國有鉄道 (機関士図・日本地図)			
ZZ.0165	平形銅剣	平成 23 年度秋季特別展 邪馬台国時代の伊予・四国	愛媛県歴史文化博物館	平成 23 年 10 月 8 日～12 月 4 日
Q.0020	宇治川先陣争い図	特集展 平清盛と“平家”の人々	頼山陽史跡資料館	平成 24 年 5 月 17 日～6 月 17 日
Q.0029	敦盛直実図	～頼山陽からみた～		
Q.0034	牟礼高松図			
Q.0002	那須与一図			

■ 特別利用

63件

3 高松市収蔵品情報システム

歴史資料館、美術館、市民文化センター、菊池寛記念館の収蔵品および文化財課所管の出土品等のデータを一元管理し、公開可能なものについてインターネットにより広く公開する「高松市収蔵品情報システム」(高松市ウェブミュージアム)を構築するとともに、積極的な運用を図っている。



<http://www.takamatsu-webmuseum.jp/>

4 ボランティア活動

■古文書解読ボランティア

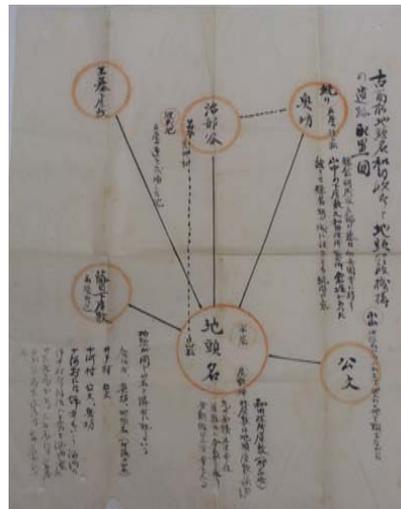
本館で収蔵する古文書等の資料については、平成10年度末から本格的に整理分類に着手している。しかし、一連の作業の中核として古文書の解読にあたる職員等の絶対数が不足しており、作業の円滑な進捗が懸念されるため、本館主催の古文書講座の受講生を中心に史料の解読をお手伝いしていただき、コンスタントに成果をあげている。23年度は書状、錦絵などの資料の解読をしていただいた。

参加人数：5人

解読資料写真(一部)



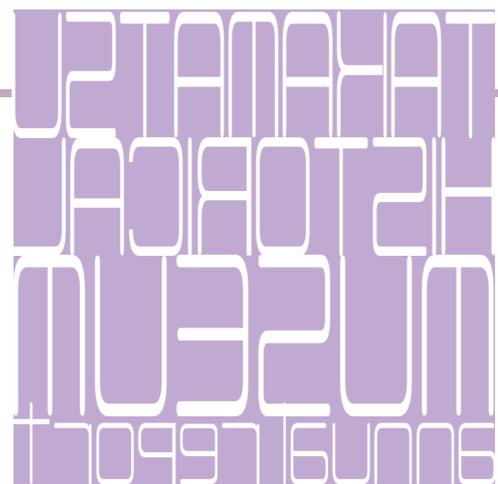
源平盛衰記 (P.0026)



古高松地頭名和田政所と地頭行政機構の遺跡配置図 (W.0499)

高松市歴史資料館年報 平成23年度 No.14

編集 (高松市歴史資料館)
デザイン (高松市歴史資料館)
発行 平成24年9月 高松市歴史資料館
〒760-0014 高松市昭和町一丁目2番20号
TEL 087(861)4520・FAX 087(837)9114
URL <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/643.html>



2011.Apr



2012.Mar